



あした

明日もしあわせ通信 (第64号) 令和3年10月号

陽は昇り 陽は沈む ♪「Sunrise, Sunset」

愛猫を見送った。

私は生来の犬派で、私の4人の子どもたちも犬と一緒に兄弟のように育った。

20年前、当時小学生だった末娘が、我が家の庭の片隅で出産したばかりの母猫と3匹の子猫を見つけた。数日間、子どもたちは内緒で世話をしていたが、ある日、兄弟そろって「猫を飼って。」と私に訴えた。

私は「うちには犬がいる。猫を飼う気はない。」と一蹴した。珍しく子ども達は食い下がり、家内も加勢し始めたので、とうとう「自分たちで世話ができるなら」と、あてにならない約束をさせて許した。

しかし、その日から子どもたちは実によく世話をした。年長の者から進学、就職などで次々と家を離れていく際にも、残された兄弟に後の世話を託して行った。



最後に残った末娘はひとりで世話を続けていたが、4年前に県外に職を得たため、私たち夫婦に「申し訳ないけど世話をお願いします。」と託して家を離れた。

先月、残った2匹の猫のうちの1匹が半年の闘病生活に終止符を打とうとしていた。家内は仕事で不在。見守っていたのは、私と帰省していた末娘の二人だけだった。臨終を迎え、涙腺の弱い私はただ泣いていたが、看護師の末娘は聴診器を当て心拍数を数え、呼吸と瞳孔を確認し、命の終わりを見定めた後、静かに泣いた。

20年前、両目にいっぱい涙を溜めて「飼って」と訴えた幼い末娘の成長がそこにあった。

(あの幼かった娘がいつの間に…) (T.K.)

～はばたき教室～ (子どもが一步を踏み出す教室)

～ゆったり子どもと向き合って～

最近「子育てに悩みます。」という保護者の声をよく耳にします。精神科医水島広子氏の著書、「毒親」という本の中にも親の対応について書かれています。親の子育てによっては、子どもの心を傷つけることになり、家庭環境をどのように築いていくのかを書いています。

親は、我が子がかわいくて愛しいものです。自分よりも立派に育ててほしいとどの親も願っていると思います。だからこそ、『自分の成績表』として子育てをしてしまう親や、自分の思い通りに子どもが行動できないと許せない親がいます。本の中では、これはまさに『子どもの私物化』であると書かれています。また、良い親になりたいくてもうまくなれず、対応方法に悩んでいる人もいます。



小学校の高学年頃になると子どもの反抗期も始まり、親子で衝突して悩むこともたびたびあります。しかし、反抗期は自立した大人になる上で大切な通過点であり、大切な時期です。悩みもありますが、視点を改めてゆったり構えて子育てを楽しんでもらいたいと思います。子どもの可能性を信じて……。

はばたき教室への相談 ☎ 989-5022 はばたき教室携帯直通 080-2974-4580



「生きていくあなたへ」



日野原重明先生をご存じですか？

地下鉄サリン事件で負傷された方をいち早く受け入れ治療したことで有名な聖路加国際病院の元院長先生で、105歳まで現役で活躍されました。

日野原先生のインタビューを記した「生きていくあなたへ」は私たちの生き方へのアドバイスが詰まっています。

その中の「わが子を先生のような人間に育てるにはどうしたらいいですか？」という問いに、

「小さいとき、自分が納得できないと2時間でも3時間でも土間で泣き叫んでいたそうです。負けず嫌いで頑固、母は苦労したことでしょう。母親にいちばん感謝しているのは『重明はほうっておいても勝手に

学ぶ。』と大いにほったらかしにしてくれたことです。」と、さらに「無関心だったからではなく、僕を信じ、その時を待っていてくれたからだ、今ははっきりと知ることができます。」とおっしゃっています。

クリスチャンだった日野原先生は「その子だからこそ神様が与えた才能があるということを感じて待つ。忍耐を必要とすることかもしれません。でも、それこそ親の持つ、最大の役割なのだということを母が教えてくれたのです。」と締めくくっています。

信じて待つ、これは、とても難しいことです。でも、参考にしたいものです。

(A)



センター長のつぶやき

チャンスはもう少しある

昭和39年10月10日、東京オリンピック開会式。私は広島市内の小学校に通っていた。白黒の画面から聖火点火の瞬間が映し出された。「もえるもえるあかあかもえる」今もこの声が消えない。

大松監督率いる東洋の魔女は、回転レシーブで拾いに拾い優勝。マラソンでは、エチオ



ピアのアベベが、柔道無差別級ではオランダのヘーシンクが優勝した。小さい胸がいっぱいになった。高速道路・地下鉄・東京モノレール・新幹線と開通し、東京は夢の国へと変貌した。一方足元では、この年の7月22日から8月19日まで真夏日が続き、1日15時間断水という異常事態が起き、東京砂漠という言葉が生まれた。

あれから57年、今回のパラリンピックで50歳の女性が金メダルを獲得した。「最年少記録は更新できないけど、最年長記録はまた更新できる」と。元気をいただいた。

私の人生も終盤となった。自分の生き方に金メダルをかける瞬間はくるのだろうか。チャンスはもう少しある。

(DOIG)

《巡回発達相談》

言葉の遅れが心配・・・

我が子の言葉が遅れている・発音が心配・・・、そんな時は、あごや唇・舌など発音に関わる器官の動きを高めることが大切です。

- ① ラッパ・ハーモニカ・シャボン玉を 吹く
- ② ストローを使って飲む シェイクを 吸う
- ③ アイスクリームや飴をべろべろ なめる
- ④ うどんやラーメンなどの麺類を すする
- ⑤ 食事やおやつのに よく噛む。
- ⑥ ぶくぶくうがいや ながらうがいを

子どもの時にたまに(?)私がやっていた「舌を出してアッカンベー」や「すいかの種飛ばし」など、一見お行儀が悪いと思うことも、意味があったのだと振り返りました。焦らずゆっくりとお子さんのよい話し相手になってあげましょう。



共感の言葉を多く使って！ (K)

伊予市子ども総合センター
〒799-3127 伊予市尾崎3-1
伊予市総合保健福祉センター2階
☎989-6226

